

職場体験

(柿木と共同制作)

国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所調査第一課

- 2、所内見学と圏央道編 -

幕張本郷中 2 年 D 組 中尾 宗司 10 月 15 日

10 月 14 ~ 15 日に僕は国土交通省に職場体験に行きました。担当の人や国土交通の他の人達の協力を得て、いろいろな事を体験し、学習できました。

所内見学

国土交通省では、第一に安全かを厳しくチェックして道路の改良、工事を進めています。道路工事の時には、安全だけでなく、暮らしや環境、経済の発展なども考え、取り組んでいます。

千葉国道事務所は、事務所長をトップに、副所長（事務 / 技術）、用地対策官、工事施工管理官、建設専門官、上席専門職、用地官、建設監督官ときます。その下に、総務課、経理課、用地第一課 / 第二課、工務課、調査第一課 / 第二課、管理第一課、管理第二課、交通対策課、機械課、電気通信課ときます。



左の 2 枚の写真は、事務所の情報管理室という場所です。左側の写真は、管理室の正面にある大画面の一部です。大画面では、道路の状況を 24 時間体制で見られます。写真でわかるように、最新の気象情報が見られます。気象がわかれば、工事にも役立ちます。右側の写真は、千葉県の道路各所にあるカメラから送られてくる画像を見られます。ここで、カメラを動かしたり、大画面に映っている画像を変えられます。ちなみに、このカメラには、ワイパーがついています。他にもこの部屋では、よく道路にある電燈掲示板の情報の表示切替やカーナビに情報を送る機械の管理、各場所で走った自動車の台数を調べるなどいろいろなことができます。

圏央道

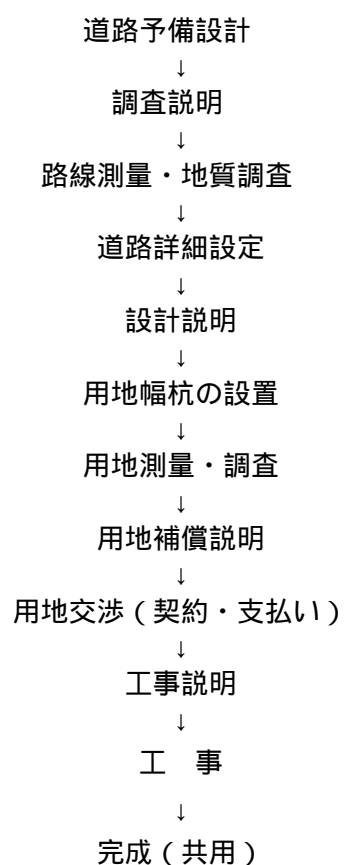
圏央道とは、首都圏中央連絡自動車道の略です。圏央道は、首都圏中心部から半径 40 km ~ 60 km の位置に計画されている延長約 300 km の高規格幹線道路です。東京の周りの首都圏を円形に結ぶことによって、首都圏へ流入する交通が分散し渋滞が少なくなるとともに、今まで都心部に集中していた都市機能が分散され、首都圏全体のバランスよい発展を図れます。このように圏央道ができると、いろいろなことが発展します。この計画は、現在も進行中で 10 分の 1 がもう完成しています。



左の写真は、未完成のトンネルの壁の様子です。下の写真は、どれも工事にかかせない機械です。左がセメントをつくる機械で、真ん中がトンネルの中に酸素をいれる機械です。酸素がないと作業をしている人達が呼吸できなくなってしまうからです。右がトンネルを掘っているときにでてきた泥水を浄水させる機械です。この工事でいらなくなった土などは、埋め立てに使われたりします。ちなみに、右の写真に写っている建物の下らへんにトイレがあります。

この工事で使ったお金は 30 億くらいいくそうです。ひとつのトンネルの工事だけでもこんなにかかるので、圏央道は何百億とかかります。

圏央道が完成するまで



左の写真の機械です。トンネルを掘っているときにかたくなると進めなくなることがあります。そういうときにこの機械を使って、かたい部分にきれつをつくり、穴を掘りやすくしてから穴を掘ります。



下の写真の機械は、あまり見たことがないと思います。これは、セメントを噴射させる機械です。トンネルの壁とかをかためるときに役立ちます。トンネルを工事するにはこういった様々な機械を使います。土などを運ぶのには、ホイールローダや大型のダンプトラックなどが役立ちます。長距離で運ぶときには、ダンプトラックが役立ちます。この工事にあつたダンプトラックは何トンもの土を運べます。トンネルを掘るときに必要な機械がもうひとつあります。